

NUPACE オンライン・ノミネーション受け付け機能の追加と運用

国際教育交流センター国際プログラム部門

楠 元 景 子

1. はじめに

2016年2月に受け入れ学生の応募書類をオンラインで受け付けるためのオンライン・アプリケーション・システムを導入してから3年が経過した。初めに、オンラインで応募書類を受け付けるためのシステムが構築され、2017年にはオンラインで推薦状とノミネーション情報を受け付ける機能が追加された。

本稿では、オンライン・ノミネーション提出機能の構築の際に検討された点、そして2018年度の運用を通して直面した問題と得られた成果について報告する。

2. オンライン・ノミネーション受け付け機能追加について

2.1 メール受け付けからオンライン受け付けへの移行

交換留学生が応募する前に、協定校の国際交流室の担当者から学内選考に合格した学生の情報を、NUPACE オフィスへ連絡する流れになっている。この事前の情報提供をノミネーションと呼んでいる。2017年度までは、メールでノミネーションを受け付けていた。そして、学生情報をエクセルファイルへ手入力し、ノミネーションリストを作成していた。そして、応募者一覧表と照合し、応募漏れがないかどうか、ノミネーションのない学生がないかどうかを確認する作業があった。しかし、NUPACE プログラムが一年間に受け入れる学生の数が増え、従来行っていたノミネーションをメールで受け付け、エクセルでリストを作り管理する方法が難しくなった。なぜなら、この方法では、非効率であるうえノミネーションの情報を正確に把握できなくなる恐れがあったからだ。このような背景から、従来の受け付け方法から、オンライン上で受け付けるシステムへ移行することとなった。

2.2 ノミネーション機能開発の検討事項

新機能の開発は、現在のオンライン・アプリケーション・システムへ追加する形をとった。まず、第一に検討したことは、全体の流れであった。それは、リクエストメールを送信する作業から、ノミネーションが提出されるまでの流れである。そして、検討の結果、次の流れで進められた。

- ① 毎学期、応募締め切りの一カ月前に、各協定校へリクエストメールを送信する。メールには、アクセスリンクとコードを記載する。
- ② リンクに国際交流室の担当者がアクセスした後、担当者情報の画面が表示され確認・修正ができる。これは、変更があった場合担当者自身が修正でき、最新の情報を登録しておくためだ。
- ③ 担当者情報の確認・更新後、学生情報を入力する画面へ進む。
- ④ 学生情報の入力後、「提出」ボタンをクリックし完了。提出前には、一時保存のボタンもある。
- ⑤ 情報提出後は、自動転送メールは送信されず最終画面のみが表示される。

全体の流れを検討する際、上記の①に関連することとして、パスワードとコードは、毎回異なったものを発行するのか、一回に限定するのか議論がされた。しかし、セキュリティ上の問題を考慮し、毎回異なるものを発行することとなった。

二つ目の検討項目は、担当者が提供する学生の情報の選択であった。NUPACE オフィスが事前に把握しておくべきものに絞りその結果下記の項目に決まった。

- ① 氏名
- ② 専攻
- ③ 所属学部・研究科
- ④ 大学名

- ⑤ メールアドレス
- ⑥ 応募時の身分と学年
- ⑦ 留学予定の学期と期間
- ⑧ ノミネーション順位

ノミネーション機能を追加した当初、⑧のノミネーション順位が設定できる仕様にしていた。それは、協定校によって学生をノミネートする順位を示している大学もあるからだ。しかし、この機能は2018年度の改修を行った際に取り除いた。その理由として、順位付けしている協定校とそうでない大学を区別することができなかったためである。すべての協定校が順位付けをしないのにも関わらず、学生の情報が入力されると自動的に順位が付される仕組みであった。実際に、ノミネーション機能を運用した初めての学期は、順位付けの有無について混乱が発生した。解決するためには、各協定校に順位付けの有無を確認する作業が生じた。これでは、効率化を向上させる目的で追加した機能として意味がなくなる。そこで、次のアドミッション時期までに取り除く改修が行われた。

三つ目の検討項目は、入力済みのノミネーション情報の閲覧方法（NUPACE オフィス側）であった。2.1の通り、ノミネーションの情報は応募者のリストと照合するという目的も兼ねているので、何等かの方法でNUPACE オフィス側が学生情報の一覧表をすぐに閲覧できた、一目でノミネーション情報がわかるようにしなければならない。そこで、閲覧方法として次の二つが考えられた。一つ目は、協定校担当者情報も合わせて、すべてのノミネーション情報をCVSファイル形式でダウンロードできる方法である。そして二つ目は、オンライン・アプリケーション・システムの管理画面上で、学生の氏名、学部と学年が確認できる方法である。以上がノミネーション機能を追加した際に検討した項目である。

最後に、利用者のためにノミネーション機能を、入力方法の簡単な説明マニュアルを作成し、運用開始前に全協定校の担当者へ案内した。

3. 実際の運用について

オンライン・ノミネーション受け付け機能は、2018年度秋学期のアドミッションに合せて、2018年2月より運営を開始した。次に、2018年度を通して得られた

成果と直面した課題と解決方法を報告する。

3.1 ノミネーション機能追加で得られた成果

まず、第一の成果として挙げられるのは、ノミネーション情報の受け付けがオンラインへ移行したことで、情報が一ヶ所に収集され、一括で管理し、まとめて情報を閲覧できるようになったことである。これまでは、メールで受け付けていたため、リストにまとめる際には、メールボックスから情報を検索しなければならなかった状況であった。これでは、情報の見落としが発生する可能性が高くなる。しかし、この機能を導入したことにより、各協定校が提出した情報は、オンライン・アプリケーション・システム上のノミネーションセクションにまとめられ、協定校名、ノミネートされた人数、学生の氏名・学年・学部を一目で分かるようになった上、ノミネーション情報を見落とすことはなくなった。

次に、ノミネートされた学生の情報のリストの手入力作業が不要となったことも、アドミッション作業の効率を高めた第二の成果と言える。オンライン・ノミネーションのデータベースから、CVSファイルがすぐにダウンロードすることができれば、手入力のミスはなくなり正確にノミネートされた学生の情報を確認できる。それによって実際の応募者リストと照合できるまでの時間が短縮された。加えて、メール受け付けで行っていた、エクセルファイルへの情報入力という手間も省略され作業の効率化へとつながった。

最後の成果として、二次的ではあるが、協定校の担当者が連絡先の情報を更新することで、筆者が別途管理する協定校の担当者情報リストへ反映させることも可能となり、協定校一覧表の更新に役立つ。以上が、機能を追加したことで得られた主な成果といえよう。

3.2 運用上の問題と解決方法

次に、実際に運営を通して直面した課題と改善点についてまとめる。まず、課題は大きく二種類に分けることができる。一つ目は、ノミネーション機能の仕様が原因と思われるものと、二つ目は新たなシステムの導入により、ノミネーションの機能や流れが誤って理解されることから生じる問題がある。

まず、最初に直面した問題は、ノミネーションの順位づけの自動付与の仕様であった。2.2でも述べたが、当初の仕様では、学生のノミネート順位が自動的に付

されていた。しかし、すべての協定校が順位付けをするわけではないため、どの協定校が順位付けをしたのが区別できず、直接メールで確認する作業が生じた。しかし、この反省から2018年度の9月までに仕様を変更し順位付けを削除した。そして、備考欄を設け、学生の情報が自由に書き込めるように配慮した。これで、混乱が避けられ不要な確認作業もなくなった。これは、仕様が起因の問題であり、システム修正を行うことで解決した。

次に目立った問題点として、協定校の担当者が1人目の学生のノミネーションを提出したあと、ノミネーション画面に再アクセスできないことがあった。最初は、システムエラーと思われた。しかし、この現象を調べた結果、担当者が一度、情報を提出したあとに、ノミネーションシステムへ再度アクセスを試みたことが原因であった。この問題に対しては、システム変更はせず、その都度先方へ説明し理解を促した。そして、提出ボタンをクリックしたあとに、提出を再確認するポップアップメッセージが表示されるようにした。その結果、新規着任した担当者からの質問はまだあるものの、導入の2期目からはアクセスができないという問い合わせの数が減少した。

そして、三つ目の問題として、ノミネーション機能の導入したあと、NUPACE オフィスから直接学生へ応募情報の案内があると誤って認識した協定校があった。応募締め切り後に担当者、あるいは、学生から応

募情報が届いていないとの問い合わせがあったため、このことが発覚した。これに対しては、①ノミネーション受付開始時の案内に、国際交流室担当者から、学生に応募情報を提供しオンラインアプリケーションの提出を指導するよう明記・強調、そして、②ノミネーション情報提出を完了後、上述のことを伝える文言の表示、の2点を行い対処した。結果として、同じような問題が減った。以上が2018年度、実際に運用を開始して発生した問題点と対処についての報告である。

4. おわりに

本報告では、2018年に運用を開始したオンライン・ノミネーション機能の構築について述べ、次に、実際の運営を通して得られた成果と直面した問題についてまとめた。NUPACE プログラムの受け入れ人数が増加するに伴い、可能な限りアドミッション作業の効率化が求められている。このような背景のもと、オンライン・ノミネーション受け付け機能の追加が決まった。一通りの流れや入力内容等は複雑ではない。しかし、アドミッション作業をより円滑に進め、さらに効率化を上げるために、今後いろいろな調整が生じてくるかもしれない。その都度現れた問題に対処し、各協定校の担当者と NUPACE オフィスが共に使いやすい機能になるように努めていきたい。